

## 新米鍼灸師奮闘記(2)

## 一、鍼灸師への道(その二)

(一財)ファジイシステム研究所 理事長 山川 烈(子44)



## 【鍼灸師とは?】

筆者は、2016年4月、北九州市小倉北区にある九州医療スポーツ専門学校・スポーツ鍼灸学科夜間コースに入学し、本格的に鍼灸の勉強を始めることになった。専門学校での生活の話が始める前に、日本における鍼灸師の歴史と現在の社会的地位について述べておこうと思う。

巷で鍼灸師と呼ばれている職業で

使われている「鍼」は、身体に細い金属を刺して侵襲刺激を与える。一方、「灸」は、ヨモギ由来の燃えやすい線維である艾もぐさに着火し、それによって熱刺激と、艾に含まれる精油の主成分、チネオールによる化学刺激を与える。それらの刺激によって、「鍼」と「灸」は、人間の本来持っている自然治癒能力を呼び覚ます。これが鍼灸師の仕事である。ならば、そこで使用する鍼は、何故、「針」ではなく、「鍼」なのか。これらの違いは何か。

以下に、京大大学人文科学研究so附属東アジア人文情報学研究センターの安岡孝一教授による解説を要約する(①)。

「針」と「鍼」には大きな違いはなく、どちらも金属のほりを指す。

「鍼」は漢の時代より以前(紀元前206年以前)から使われていた。他方、

「針」の起源は南北朝時代(5〜6世紀頃)までしか遡れないようである。要するに、「鍼」は旧字、「針」は新字というだけの話である、というのが安岡教授説。

ところがいろいろ調べてみると、「針」は縫いばりのことであり、「鍼」は漢方医療の治療用のほりであるとする説もある(例えば、三省堂の『新明解』)。

法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示す「常用漢字表」(昭和56年内閣告示)によると、「針」の語例として針路、運針、秒針、羅針盤、針金などが挙げられており、「針」と「鍼」の守備範囲の違いも容易に理解できる。

また、中国の伝統医療で使われてきた技法が日本に伝わり、日本独自の医療として完成された技法を「和鍼」と呼び、そのもとになった中国伝統医療の技法を「中国針」と呼ぶ説もある(②)。前者に「鍼」を使用し、後者に「針」を使用しているところが興味深い。

和鍼と中国針では、ほりの太さと

長さ和使用法が異なる。通常、和鍼は中国針に比べて細く短い。

また和鍼は、鍼を狙ったところに刺入する目的で、その鍼よりもやや短い「鍼管」と呼ぶ管に入れ、そのわずかに出た柄の部分をつんと叩いて皮下に刺入する。この鍼管は、江戸時代に検校・杉山和一(図2・1参照)によって発明され、以来、盲人施術者にとって不可欠のものとなった。ただだけでなく、刺鍼時の痛み(切皮痛)を格段に軽減させるものもなかった。

他方、中国針は、太いうえに針自体を指で持って、グイッと押し込むように皮下に刺入する。したがって、当然のことながら中国針は和鍼に比べてはるかに強い痛み(切皮痛)を伴う。



一 和 山 杉

図2・1 管鍼法の創始者、杉山和一検校。(ウィキペディア)

さて、「針」と「鍼」の違いもさることながら、鍼灸に携わる者にとつて、死活問題となる極めて重大な出来事があった。

1945年8月14日、第2次世界大戦・太平洋戦争に敗北した日本は、ポツダム宣言を受諾せざるを得なくなった。その宣言を執行する名目で、アメリカ合衆国のマッカーサー元帥率いる連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）、いわゆる進駐軍が日本を占領支配し、天皇並びに日本国政府の統治権はGHQの支配下に置かれることとなった。GHQは、日本の民主化、近代化を図るために、あらゆる制度にメスを入れた。日本の伝統医療である鍼灸もその対象となったことは言うまでもない。盲目の人間が「鍼を打ち、皮膚を焼く」など医療ではないと一蹴し、厚生省（現・厚生労働省）に対して「鍼灸禁止令」とも解釈される厳しい内容の是正勧告を行った。これが後に業界で言われるところの「GHQ旋風」である。これに対し、鍼灸師、あんま・マッサージ師などの業界は、厚生省や国会に働きかけ、厚生省は、GHQの中の医療制度改革を担当し

ていた公衆衛生福祉局（PHW）と交渉を始めた。PHWの局長をはじめ、ほとんどのスタッフが医療の専門家であった。にもかかわらず、その交渉記録が、「Regulation of Questionable Medical Practice（怪しげな医療の規制）」（1947年10月22日付）として残っていることから考えると、PHWが鍼灸の効能を知らなかったために、相当衝撃的な「疑念」を抱いていたことがうかがい知れる。さらに、このことは別に、鍼灸師に関わる重大な事態が進んでいくことを、業界は知る由もなかった。

昭和17年6月17日に国語審議会が文部大臣に答申した「標準漢字表」は、各官庁および一般社会で使用される漢字の標準を示したもので、部首画数順に2528字が収録されていた。新字の「針」は、その中の「金の部」に含まれていたが、旧字の「鍼」は、カッコ書きにもなっておらず、標準漢字表からは外されていた。これは、そのまま昭和17年12月4日に文部省から正式な標準漢字表として発布された。

さらに昭和21年11月5日、国語審議会が「当用漢字表」を、文部大臣に答申したが、この当用漢字表でも同様に、新字の「針」は収録されていたが、旧字の「鍼」はカッコ書きにすらなっていないかった。この当用漢字表は、翌週11月16日に内閣告示されたが、それにもやはり新字の「針」だけしか含まれていなかった。このことは、鍼灸師に関する法律を制定する際に、おのずと名称および文章の記述に制限が加わることを意味する。

一方、厚生省が行っていたPHWとの交渉が功を奏して、昭和22年12月20日に、業界は、日本の伝統医療である鍼灸、あんま、マッサージ、指圧等の手技に関して、「あん摩、はり、きゅう、柔道整復等営業法」の制定を勝ち取ったのである。しかし、それまで業界がこだわった「鍼」という漢字が、先に述べた「標準漢字表」および「当用漢字表」から外されていたことを知った業界が愕然としたであろうことは容易に推察できる。「灸」や「按摩」という漢字についても同様である。しかも、その状況は、75年以上経った現在も変わっていない。業界は、これらの漢字を各漢字表に含めるための活動に

力を注ぐよりも、差し迫った視覚障害者の生業を合法化し、彼らの生活を保護することを優先し、死中に活を求めたのである。

そして、その法律は昭和45年に「柔道整復師法」を切り離し、「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」（略称「あはき法」）として現在まで運用されている。したがって、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師は互いに全く独立した資格である。この中で、はり師ときゅう師の二つの資格を有する者を「鍼灸師」と通称している。

平成2年4月1日施行の「あはき法の一部改正」により、それまで都道府県知事が与えていた柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を、厚生大臣が与えることになった。つまり、この日からこれらの免許は全て国家資格になったのである。

### 【「医業」と「医業類似行為」】

人間の健康と医療に携わる業種に関して、同じ国家資格とはいえ、医師・薬剤師と、あはき法・柔道整復



師法で規定される者との間には、その知識と技量、社会から寄せられる期待に厳然たる差異がある。その教育課程からすれば至極当然のことではある。

診断、薬品の投与、注射、手術などは、医師の国家資格を持っていないわけではできない行為（医行為）であり、医行為を反復継続する意思をもって行うことを医業という。

これに対して、柔道整復術（ほねつぎ）、あん摩マッサージ指圧、鍼灸などは医業類似行為と呼ばれる。

医師の国家資格を持つ者は医業も医業類似行為も行える。しかし、医師の国家資格を持たない鍼灸師、按摩マッサージ指圧師は、医業類似行為は行えるが、医業を行えない。

しかし、これらを学問として見た場合、また超高齢化社会における医療を考えた場合、日本の健康・医療制度はこれでよいのか。筆者は、極めてアンバランスな感を否めない。

かつて中国から日本に伝来した漢方、鍼灸、按摩、養生法（薬膳、薬草茶など）は、江戸時代末期までに、日本独自の発展を遂げ、将軍家はもとより、一般庶民に至るまでその健

康を支える重要な役割を果たしていた。時は移り明治維新を迎えると、西洋文化にあこがれ、追い着き、追い越せの機運に押された明治政府はそれまでの日本伝統医学や蘭方医学をないがしろにして、ドイツ医学を主とする西洋医学を本格的に取り入れ、擁護した。その結果、日本伝統医学は次第に表舞台から遠ざかり、一部の一般庶民の間で細々と受け継がれることとなった。やがて第二次世界大戦・太平洋戦争後の「GHQ旋風」により、またもや社会的打撃を受け、その後の国家的支援の乏しい中で、学術的發展、社会への普及が甚だしく遅れ、今日に至っている。

中国や台湾では、西洋医学のみならず、中国伝統医学（中医学）を擁護し発展させている。筆者が、数年前に台湾の台北医科大学付属病院で講演をした際のフリーディスカッションで聞いた話では、同病院の患者は初診受付の際に、西洋医学による診療と中医学による診療を自由に選ぶことができる。その結果、年齢に無関係に、患者の約70パーセントが中医学を選ぶという。それに伴い、当然のことながら、診療及び研究のためのスタッフ、設備、スペースの規模も大規模である。これならば中医学の発展は当然のことだと思つた。（図2・2参照）

また米国では、純粹な西洋医学だけではなく、世界各地の伝統医療や補完代替医療などを含む統合医療（integrative medicine）も普及している。さらに米国空軍では、「戦場耳鍼（Battle-Field Acupuncture）」という進化した鍼が必須の医療技術として普及している（図2・3参照）。戦場では、負傷した兵士の激痛を抑える薬物が常に手元にあるとは限らない。また麻酔薬で鎮痛できたとしても、それにより兵



図2・2 2015年5月29日に筆者が台北医科大学付属病院で講演した際のフリーディスカッションでは、同病院の患者の約70%が西洋医学ではなく中医学での診療を希望しているという。それほど中医学に寄せる期待が大きいと言える。中医学の研究者、設備、研究スペースの規模に驚いた。（向かって左から5人目が筆者。）

士は無気力化し、戦闘はおろか逃避も危うくなってしまう。耳介には強力な鎮痛のツボが5個ある。そこに専用の道具で耳介のツボに特殊な鍼を刺入する。即効性があるので次のキャンプまでの搬送が楽になる。このように鍼は進化し、鍼灸治療も進化し、医療技術として高度化してい

る。にもかかわらず、日本国政府は、日本伝統医学の発展支援に消極的であった。その研究者は大勢いるにもかかわらず、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧に、「鍼灸」もしくは「はり」、「きゅう」、「あん摩」などのキーワードが全く見当たらないのは、そのことを如実に物語っている。

週に5日間。春休み、夏休み、冬休

### 【専門学校への通学事情】

に二コマ（一コマは90分）の授業を



図2・3 米国空軍で開発された戦場耳鍼。戦場では、負傷した兵士の激痛を抑える麻酔薬が常に手元にあるとは限らない。あつたとしても、それは兵士を無気力化し、戦闘、逃避が不可能になる。耳介には強力な鎮痛のツボが5つある。そこに右上の写真のような道具でピアスのような鍼を打ち込めば、即効性があるので次のキャンプまでの搬送が楽になる。

日本伝統医学に携わる高度の知識と技術を身につけて、超高齢化社会において医療費の国家予算を破綻させないための制度改革について、筆者の考えを本連載の後半の回で述べたい。

かくして鍼灸師になるには、「あはき法」に定めら

みが、ほぼ大学と同様に組み込まれている。しかし、夜間コースは、昼間に仕事を持っている人のためのコースであるので、出張や長時間の会議等のスケジュールリングを考慮してか、18:20～19:50と20:00～21:30の二コマ授業が週に3日間（火、木、土）となっている。それでも、昼間コースと同じ年間授業時間数に調整するために（週に2日間の不足分を補うために）、夜間コースの場合は、夏休み・冬休み・春休みが大きく削られて、授業の時間割が作られている。

前回、「一、鍼灸師への道（その一）」でも述べた通り、当時、筆者は熊本私立総合大学である崇城大学の副学長の職に就いていた。専門学校の18:20の授業開始に間に合うためには、熊本から小倉まで九州縦貫自動車道（高速道路）と北九州都市高速道路を利用するとしても、15:30には大学を出る必要がある。そこで、専門学校登校日と大学の勤務日の重複する火曜日だけは崇城大学を早退してよいという理事会の承認を得た。とはいえ、現実には、大学院の学部長会議や、その他の重要な会議で議長を務めている際には、

会議を切り上げて早退というわけにもいかない。出発の遅れた分を、高速道路を走りながら回復するのは容易なことではない。また、「交通渋滞のため、若干遅刻するかもしれない。」とクラス担任の先生に何度電話したか分からない。（事情を説明しないで、遅刻すれば、遅刻3回で欠席1回とみなされ、授業日数の三分の一以上の欠席で、その科目は未履修となる。）専門学校に入学して最も神経を使ったのは、毎週火曜日の約2時間半にも及ぶ高速道路を利用した通学時間のコントロールであった。ただ、そのことが、後に私の人生上、極めて重要かつ有難い結果をもたらすことになるとは夢にも思わなかった。これについては、紙面の都合上、次回に述べる。

通学に関してもう一つ大きな問題が筆者の前に横たわっていた。それは駐車場の問題である。専門学校は北九州市小倉北区の繁華街（小倉駅より徒歩で約20分の所）に位置しているにもかかわらず、教職員、学生のための駐車場を保有していないので、近隣の有料駐車場を利用するしかない。学校から徒歩5分の立体駐



車場の駐車料金は、平日30分間100円。専門学校での授業は一日二コマだから3時間。休憩時間10分間。駐車場往復20分間。合計3時間半であるが、余裕を見て4時間として、駐車料金1日800円。月に12日間の通学日で9,600円。結構な額である。新学期が始まって数日経ったところ、一年先輩（とは言っても年齢は筆者の孫世代）から、耳寄りな話を聞いた。専門学校から徒歩数分のところにある井筒屋パーキングの話である。17:00以降に入庫した場合は、井筒屋関連の店で商品を買えば、そのレシート（金額は問わない）を駐車場受付に持っていけば、駐車券を「当日24:00まで無料」の処理をしてくれるという。そんなうまい話には、裏があるのが常であるが、実際やってみると、全く裏は無く、かなりの人数の夜間コースの学生がその恩恵を被っていた。ただ、そのことは駐車場のどこにも表示されておらず、駐車場受付で聞けば教えてくれるという貴重な情報であった。それ以降、筆者は、18:00頃、井筒屋パーキングに到着し、入庫したら、すぐにこの地下にある文房具店の奥に走っ

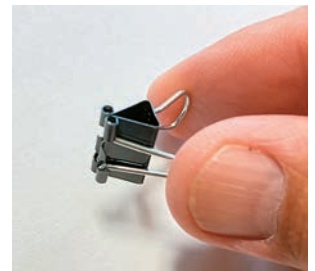


図2・4 ダブルクリップ(小)@16円(税込み)。17時以降の領収書で4時間の駐車料金が無料になった。

て行き、ばら売りの1個16円(税込)のダブルクリップ(小)(図2・4参照)を1個だけ握りしめ、レジで16円のレシートを確実にもらうことにした。これでその日の駐車料金は無料。つまり、18:00~22:00の4時間の駐車料金は16円で、おみやげにダブルクリップをもらったと解釈できる。なんと有難い駐車料金システムか。このシステムが、多くの苦学する専門学校生に対する支援の意味で作られたのであれば、それは大いに社会的称賛を受けるに値する。

【新学期に胸躍る】

新学期の始まりにいつも感じることは、この一年間どんな授業があるのだろうかという期待感にワクワクすることである。その気持ちは10歳代であろうが70歳代であろうが変わらない。筆者も、およそ50年ぶりにそ

のようなワクワク感を味わうことになった。筆者の所属していた「スポーツ鍼灸学科」では、他校の鍼灸学科と同様に、解剖学、生理学、病理学、衛生学、はりきゅう理論、経絡経穴概論、東洋医学概論、東洋医学臨床論、関係法規、臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、医療面接、等々の教科書(図2・5参照)に基づいて教育が行われる。このほか、筆者の場合は、図2・6に示す「グレイの著書である「グレイ解剖学アトラス」(全576頁)と「グレイ解剖学」(全1,127頁)が、在学中はもとより、鍼灸師として活動する現在も、片時も離せないバイブルである。このほか、スポーツ鍼灸学科では、その名の示す通り、鍼灸のほかに、スポーツ指導員やスポーツトレーナーとしての素養も身につけることになる。例えば、コーチングやスポーツ指導における心構えや技能、スポーツ受傷時の対処の仕方(バンデージ、応急処置、一次救命処置(BLS)など)、さらには、疲労回復のためのアロマ療法(③)など、普通の鍼灸学科では修



図2・6 専門学校在籍中に愛用した参考書。解剖学のバイブルといわれ、多くの医学生にも読まれている(a)グレイ解剖学アトラスと、(b)グレイ解剖学。



図2・5 専門学校夜間コース(スポーツ鍼灸学科)で使用した教科書。

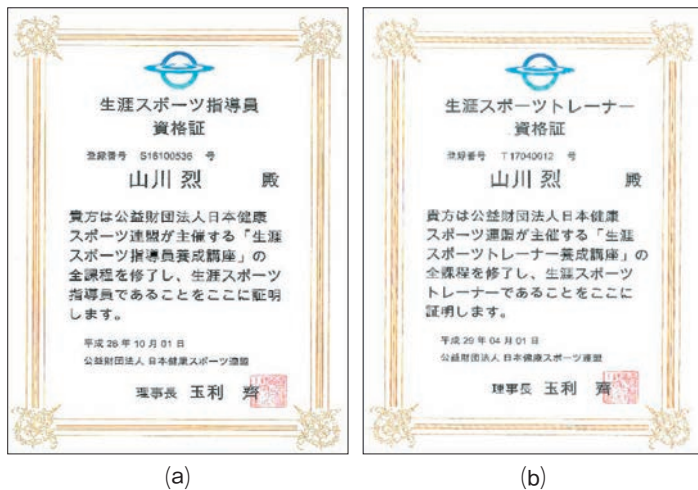


図2・7 しかるべく実技を経験し、講義を受けて単位を取得すれば、(a)「生涯スポーツ指導員」、および (b)「生涯スポーツトレーナー」の資格を取得できる。

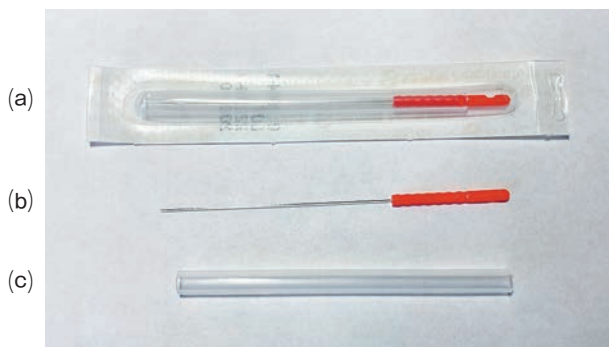


図2・8 ディスポーザブルな毫鍼<sup>こうしん</sup>。(a) 滅菌用エチレンオキサイドガスに封じ込まれた毫鍼。(b) 使用直前に封を切って使用する毫鍼と (c) その鍼管。鍼管を使うことにより、鍼を刺入する操作が楽になり、その際の切皮痛を抑制できる。

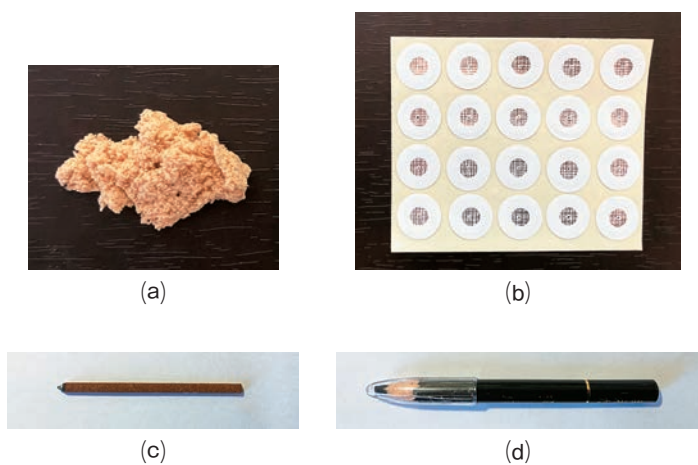


図2・9 灸治療に用いる (a) 艾、(b) 熱さを緩和するために艾の下に敷く灸点紙、(c) 艾に火をつけるための線香、および (d) 艾を配置する場所に印をつける灸点ペン。

学しないような内容の科目や実技がカリキュラムに組み込まれている。しかるべく実技を経験し、講義を受けて単位を取得すれば、「生涯スポーツ指導員」や「生涯スポーツトレーナー」の資格(図2・7参照)を取得できる。ここで、「生涯スポーツ指導員・トレーナー」とは、0歳から100歳までの人達(子供から高齢者まで)の健康維持・増進をサポートする指導員・トレーナーである。他方、競技別の世界で通用する高度な

専門的アスリートを育て、最高のパフォーマンスを発揮させる指導員・トレーナーは「競技スポーツ指導員・トレーナー」と称される。(4)教科書や配布資料のみならず、実習に関連する物品の購入も、新学期の始まりにワクワク感を掻き立てる。実習の時に着る白衣(本連載の頭に掲載されている写真を参照)は鍼灸を学び施術する者を象徴するものとして最も学生の興味をひくものである。

消耗品としては、実習に使用するディスプレイザブルな毫鍼<sup>こうしん</sup>(図2・8参照)や灸実習に使用する艾<sup>もぐさ</sup>など(図2・9参照)。使用前の毫鍼は1本ずつ鍼管に収められ、エチレンオキサイドガスとともに密封包装され、無菌状態が保証されている(図2・8(a)参照)。使用時には附属の鍼管(図2・8(c)参照)を使って皮膚に刺入すれば、柔らかい皮膚を引き延ばすことなく瞬間に皮膚を切つて鍼を皮下に刺入できるので、ほとんど

痛み(切皮痛)を与えない。さらに現在日本で使われている日本製の鍼の先端は微妙に丸みをおびており、これも痛み軽減の要因となっている(図2・10(a)参照)。鍼の直径は、最も標準的なもので0.16mm。すなわち女性の毛髪の直径の2倍程度である。したがってしなりやすいが曲がりにくい(塑性変形しにくい)。これも痛み軽減の要因である。さらに、皮膚面に分布する痛み感覚の「痛点」は1cmの中に100〜200個存在するが、



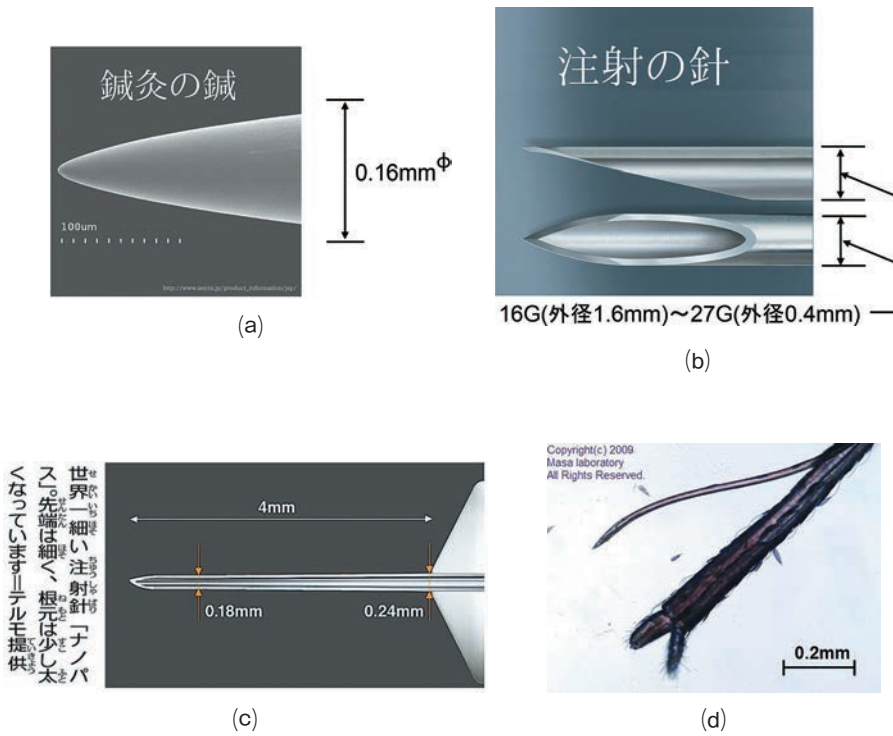


図2・10 針各種。(a) 鍼灸の鍼の先端は程良い丸みを帯びているところがミソ。(b) 注射の針。(c) 世界で最も細い注射針「ナノパス」。(d) 蚊の口針。

[http://www.seirin.jp/product\\_information/jsp/](http://www.seirin.jp/product_information/jsp/)  
<http://fujiseiko.com/ja/products>  
<https://plaza.rakuten.co.jp/nakabisya/diary/200909140000/>  
<https://www.terumo.co.jp/newsrelease/detail/20190225/482>

この毫鍼の細さでは、痛点到命中する確率が極めて低いので、このことも刺鍼時に痛みを感じにくくする要因である。これに対して、0.4mmよりも大きい注射針(図2・10(b)参照)は、刺入する際に痛点到当たり、痛みを禁じ得ない。その問題を克服するために、最近では直径0.18mmの「ナノ

パス」と呼ばれる「痛くない注射針」が出回っている(図2・10(c)参照)。他方、蚊が皮膚に刺す口針(6本の針束)(図2・10(d)参照)の直径は50〜60μmであるので、やはり蚊に刺されるときの痛みを感じない。蚊の刺針のメカニズムは巧妙で、これを工学的に模倣したマイクロニードル

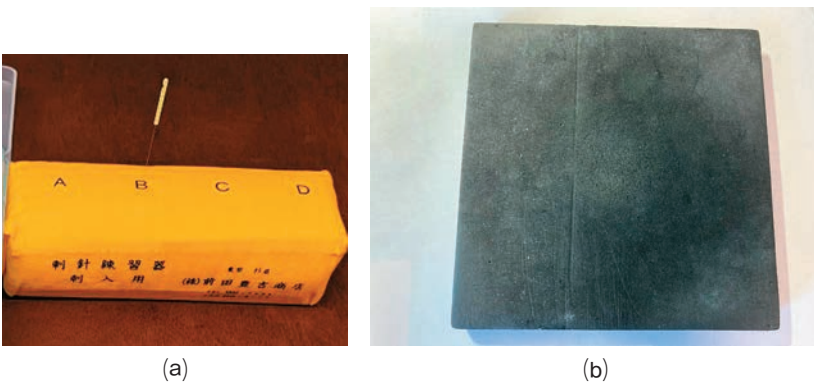


図2・11 刺鍼の練習に使用する (a) 4段階の硬さを持つ練習器と (b) 弾力性と反発力のあるスポンジ板(厚さ2cm)。

も報告されている(⑤)。このように、和鍼の特長は、鍼管の使用、先端の微妙な丸み、鍼の細さ、鍼のしなりによって得られる、注射針よりも「はるかに少ない痛み」である。1年生の実技で、まずそれを体験することになる。教えられたとおりに、自分の手で、自分の脛に鍼を打った。傍目と異なり、全く痛

みを感じなかったことは、新しい世界に飛び込んで得た新鮮な驚きであった。ほかに鍼実習で使用するものとして、4段階の硬さをもつ刺入練習台、および弾力性と反発力のあるスポンジ板などがある(図2・11参照)。灸実習に必要なものとしては、艾、灸点紙、艾に点火する線香、灸を据える際に、艾を置く位置を予めチェックして、身体の表面に印をつけておくための灸点ペンなどがある(図2・9参照)。鍼実習および灸実習で使用するこれらの消耗品は、1年生の前期中で頻繁に使用することになる。

### 【専門学校の授業風景】

専門学校の授業は、大学の授業と雰囲気はかなり異なる。

まず、専門学校の最終目的は学生全員を国家試験に合格させることであるので、専門学校の日常生活のすべてのベクトルが国家試験に向いている。したがって学生諸君もよく勉強をする。大学生よりもはるかにその目的意識が高い。国家試験に落ちたら、「ただの人」になる。その後、

就職には結びつかない。したがって皆、真剣である。

実習・実技以外の授業は、クラスごとに定められた教室で行われ、クラス委員（筆者とOさん）の発声する「起立！礼！」で始まり、「起立！礼！」で終る。

毎回、2時限目終了（21:30）後には、予め決められた2名の掃除担当が教室の掃除をして帰路に就く。掃除担当の作成はクラス委員の仕事で、毎年、前期、後期に分けて作成し、教室に貼っておく。

【記憶力がものを言う国家試験】

廊下や階段、各教室の前方の壁などには、学生を鼓舞するための言葉がいくつも貼ってあり、国家試験までの残された日数が毎日更新され、否応なしに闘争心を掻き立てられる。

専門学校における授業は、教科書のほか、担当の先生が作った配布資料をもとに進められるが、その憶えるべき内容の多さには、正直驚いた。例えば、重要な解剖学や生理学、臨床医学総論、臨床医学各論、東洋医学概論などの教科書は、いずれも300ページ程度もしくはそれを超す厚さである。

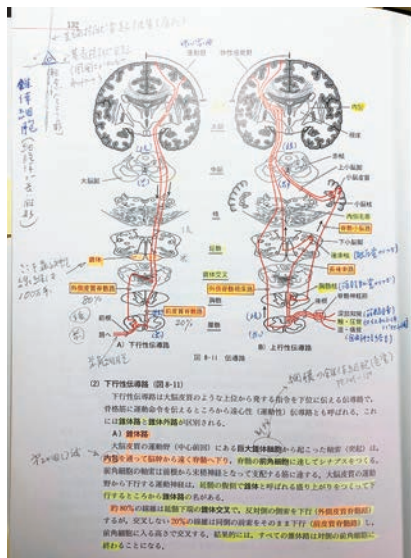
わけて393穴にも及ぶ。しかもその経穴名の中には常用漢字に無い字を

使ったものが多数存在する（頤会、禾膠、天鼎、屋翳、箕門、跗陽、大赫、靈墟、翳風、頤厭、懸釐、輒筋など）。その経穴の名称のみならず、その位置や、それがどの経脈に属するか、その近くを通る神経や血管（動脈、静脈）の名前、筋肉や骨の名前、さらにはそれに関する付随事項、そ

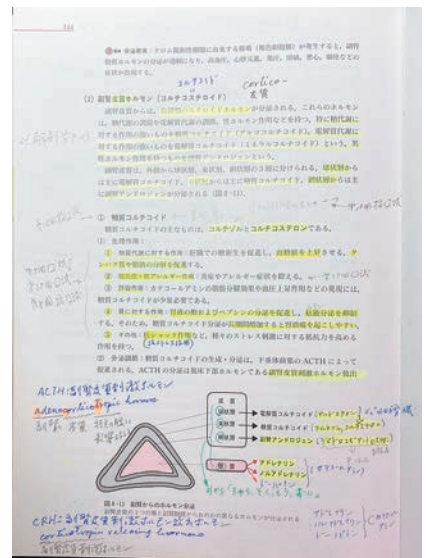
る。しかも、憶えるべき項目が各ページに10個以上はある。経絡経穴概論も似たようなもの。筆者の50年を超える研究活動の中で、1頁内に憶えるべき新しい項目が10項目以上もある教科書や論文は無かったように思う。経絡経穴概論に関しては、経穴

穴名の中には常用漢字に無い字を使ったものが多数存在する（頤会、禾膠、天鼎、屋翳、箕門、跗陽、大赫、靈墟、翳風、頤厭、懸釐、輒筋など）。その経穴の名称のみならず、その位置や、それがどの経脈に属するか、その近くを通る神経や血管（動脈、静脈）の名前、筋肉や骨の名前、さらにはそれに関する付随事項、そ

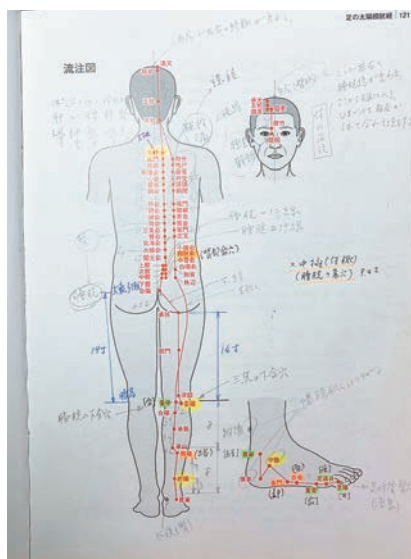
れらの関係性など数え上げたらきりが無い。それらを丸暗記せよというのである。筆者は大学教員現役時代に、学生諸君に「覚えるな！ 考えろ！」と叱咤していたが、専門学校でそんなことを言っていたら、国家試験はおろか、卒業試験すら危うい。おそらくこのことは、大学と専門学校の違いではなく、筆者がこれまで



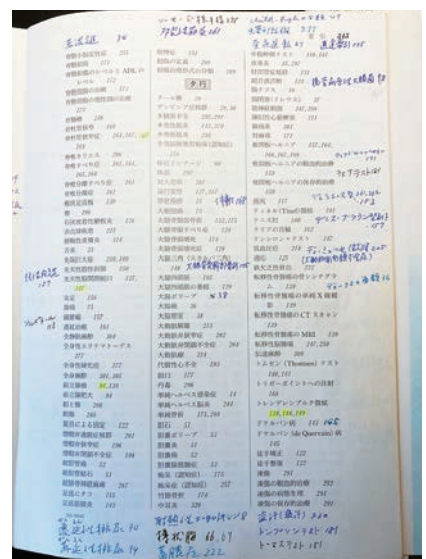
(a)



(b)



(c)



(d)

図2・12 授業で使った教科書の内容。(a)解剖学。(b)生理学。(c)経絡経穴概論。(d)臨床医学各論(索引)。他の教科書もほとんど同じように、憶えるべき重要な箇所にはマーカーで印をつけ、また重要な事項は、メモとして追加記載している。教科書に記載されていなかった用語については、(d)のように索引に追加記載した。



歩んできた工学分野と、意を決して飛び込んだ医学分野の違いであろう。文化と哲学の異なるこれら二つの分野の間でオロオロする自分の姿が小さく見えた。筆者は若いころから記憶力には自信がなく、それを基盤とする科目（特に日本史、世界史、地理など）は極力遠ざけて来た。ましてや、年齢70歳を迎え、手帳に書いたこと以外は憶えない、今朝葉を飲んだか否かを忘れて女房に聞くと「ゴミ箱見てみたら？」とあしらわれ、懇親会で「初めまして」と名刺を差し出したら、「先生、去年もお会いしました」と言われて引っ込みのつかない高齢者。新しいことを覚えるという脳活動はほとんどやってこなかった人間にとって、新しい教科書を開いて、見慣れない言葉の多さに気付いた時のショックは如何とも例えようがない。記憶力に関してはまさに「車椅子生活」あるいは「松葉杖生活」である。それが、3年後にはフルマラソンを完走しますと宣言したようなものだ。期待に胸を膨らませて専門学校に入学はしたものの、不気味な不安感に包まれてしまったことを、今でも鮮明に思い出

す。案の定、解剖学は中間試験、定期試験で不合格。再試験でも不合格。その結果、2年生になっても、1年生と一緒に解剖学の定期試験を受験しなければならなかった。「見慣れない顔が一番前の席で定期試験を受けているヨ。あの人誰？」という目で見られた時の気まずさは、味わったものでなければ分らない。

一回の試験範囲が百数十頁となると、その試験勉強に1カ月かけても足りないくらいである。教科書を読みながら、重要と思われるところにマーカーで印をつけ、調べたことをメモとして記載し、因果関係等も重要であれば、その説明も記載するので、いつの間にか、いずれの教科書も、余白がびっしりとメモ書きで埋まってしまった。索引のページですら、自分で調べた用語が追加され、「自分専用」の教科書となる。専門学校の生活に慣れてくるにしたがって、次第に自分の考えの甘さに気付き始めた。記憶力の乏しさは障害者並み。折しも2016年9月7日から18日までの12日間は、リオ・パラリンピック。これには本当に勇気づけられた。「失ったものを

数えるな。残されたものを最大限に生かせ。」というパラリンピックの精神は、筆者の耳には「失われた記憶力を気にするな。残された洞察力を最大限に生かせ。」となって聞こえた。

よろし、一発かましてやる！ 矢  
でも鉄砲でも持ってこい。  
(以下次回に続く)

#### 【参考文献】

- ① 安岡孝一、「針」と「鍼」、ことばのコラム、第97回、2015年10月15日。
- ② 「和鍼の効果と特徴を徹底解説！中国針との違いは？」  
<<https://www.maple-nagoya.com/2019-06-26/6493/>>
- ③ アロマ療法：植物から抽出した香り成分である精油（エッセンシャルオイル）を使って、心身のトラブルを穏やかに回復し、健康や美容に役立てていく自然療法。
- ④ 水嶋昭彦、中尾繁樹、油谷信隆、生涯スポーツトレーナー教本、学校法人・国際学園、2015。
- ⑤ 青柳誠司、蚊の生体模倣による痛みの少ない針の工学的実現、日本臨床麻酔学会誌、Vol.33, No.5, pp.697-702, 2013。